

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH288
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 2
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	濱田 淳, 浅木 健治, 藤原 基
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	上肢の関節、胸鎖関節・肩鎖関節・肩関節・上腕部周辺等の関節脱臼及び筋腱軟部組織損傷を中心に実技実習講義を行う。特に臨床的症例をパワーポイントを使用してわかりやすく解説する。 関節損傷を理解するためには機能解剖の知識が不可欠であるので、その都度繰り返し勉強する。保存療法に必要な診断法、整復法、固定法、後療法、特有な合併症等について実習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師を目指すうえで必要な下肢の各部（骨盤から膝関節まで）の損傷について診断法、整復法、固定法を、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして講義する。 担当教員 濱田 淳 元接骨院院長 柔道整復師 浅木 健治 元接骨院勤務 柔道整復師 藤原 基 元接骨院勤務 柔道整復師
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能」を有することを目的として、総合的に診断法・整復法・固定法・後療法等について理解する。 カリキュラムポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う、および総合的な能力を養う」ことにより、柔道整復師の基礎概念を習得し、本実習内で学習する外傷について理論的に理解し、実践するために必要な技術を身につける。
計画・内容	【計画・内容】 1) 実習の進め方、ガイダンス 2) 上肢帯の解剖, 周辺軟部組織の解剖 3) 胸鎖関節脱臼 分類・症状・整復法・鑑別診断・固定法 4) 胸鎖関節脱臼 整復法、固定法実習（体幹部包帯の実習を含む）班別 5) 上肢解剖と肩関節の機能解剖 6) 肩鎖関節脱臼 分類と発生機序・症状・整復法 7) 肩鎖関節脱臼 分類別整復法と固定法（班別） 8) 肩鎖関節脱臼 硬化材料使用固定実習 9) 肩関節脱臼 分類と発生機序・鑑別診断（骨折との鑑別） 10) 肩関節脱臼 症状と整復法を理解させる

計画・内容	<p>11) 肩関節脱臼 整復法と固定法（綿包帯伝承的固定法）班別</p> <p>12) 肩関節脱臼 整復法実習、固定法演習（班別）</p> <p>13) 肩関節脱臼 硬質材料使用による固定実習</p> <p>14) 肩関節測定法（音叉・打検・圧痛計）と機能的な運動療法</p> <p>15) 肩関節測定法実習と運動療法実習（班別）</p> <p>16) 肩関節脱臼 臨床演習症例供覧と応用実習</p> <p>17) 肩関節脱臼 臨床演習症例供覧と応用演習（班別）</p> <p>18) 腱板断裂 分類と発生機転・症状</p> <p>19) 腱板断裂 検査法と固定法・後療法</p> <p>20) 上腕二頭筋長頭腱損傷 分類と発生機転・症状</p> <p>21) 上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法と固定法・後療法</p> <p>22) その他の肩関節軟部組織損傷</p> <p>23) 上肢・体幹臨床的な総合包帯法実習</p> <p>24) 上肢・体幹臨床的な総合包帯法実習（班別）</p> <p>25) 肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼症例演習</p> <p>26) 肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼症例演習</p> <p>27) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ</p> <p>28) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ</p> <p>29) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ</p> <p>30) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ</p> <p>各回、各教員が学生へ教授する。</p>
授業の進め方	柔道整復理論の講義あるいは問題演習とその解説などを行う。
能動的な学びの実施	授業内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、ディスカッションを通して問題点や課題を理解する。
授業時間外の学修	<p>授業時間外学習 各予習、復習に60分以上（合計60時間程度）</p> <p>予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと</p> <p>復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。</p>

教科書・参考書	<p>[教科書・参考書]</p> <p>1) 公益社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学理論編」(改訂7版) 発行所・株式会社南江堂定価7200円</p> <p>2) 公益社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学実技編」(改訂2版) 発行所・株式会社南江堂定価7000円</p>
成績評価方法と基準	<p>平常点(課題内容、出席数など)30%、期末試験70%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。</p> <p>実技科目のため、原則として3回(6コマ)以上欠席(考慮できる理由なく)した学生は単位を認めない。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>学生からの課題などの進捗確認の都度、コメントを行う。</p>
オフィスアワー	<p>Campus Square を参照</p>
留意事項	<p>進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。</p> <p>講義内だけの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。</p> <p>非対面形式であっても医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。</p> <p>授業中課題50%と定期試験の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する。</p>